

令和元年度地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

第1回 ケアカフェきたそらち 開催結果・評価

項目	内 容
1 目 的	療養が必要な地域住民を支える地域支援関係者と医療関係者が顔の見える関係ができ、情報交換できるようになる
2 期待する効果・成果	○地域支援関係者、医療関係者等の多職種が情報交換・共有する関係性と環境が構築される ○多職種の交流の場を運営する組織ができる
3 日 時	令和元年6月14日(金)18:00～20:00
4 場 所	深川市立病院 2階会議室
5 内 容	(1)話題提供 「病院のリハビリ・地域のリハビリ」 話題提供者 深川市立病院 作業療法士 永洞政幸氏 (2)グループワーク テーマ「運動」 カフェマスター 深川市立病院4東病棟 副師長 坂本一樹氏
6 出席者	看護職26名、介護支援専門員15名、MSW・SW・相談員6名、薬剤師2名 保健師4名、リハビリ職14名、ヘルパー4名、事務職3名、医師1名、歯科医師1名 管理栄養士2名、歯科衛生士2名、介護職2名、その他6名 <u>合計88名</u>
7 結 果	(1)話題提供内容 ○病院で行うリハビリ ・入院及び外来患者を対象に、身体機能や日常生活動作能力を高めること ・退院前の家屋訪問や作業療法、レクレーション等を実施し、畑作りや作品制作し展示している実際の様子を紹介 ○地域で行うリハビリ ・介護予防を機能強化する観点から、個別訪問や地域ケア会議等へ出席 ・関係者の介護予防ケアマネジメント力の向上、介護職員への介助方法等実技や活動の提案行う ○運動 ・運動の目的や、話題提供者自身の経験を紹介 (2)グループワーク ○1グループ5人 17グループ。知らない人同士で着席 ○受付にお菓子を用意し、自由に持って行ってもらった。お菓子を持参したのは数人 ○名札と飲み物は、ほとんどの人が持参 ○カフェマスターから、ケアカフェの進め方について説明。その後、テーマに基づき自由に話し合いし、模造紙へ各々が自由に記載 ○1つのチャットを30分。チャット2まで実施し、チャット3で全体共有 ○MVSを2名決定し、プレゼント(ライスパワー体操のDVD、ケアカフェネーム入りボールペン)贈呈

【小部会で振り返り】

○：達成できた △：ほぼ達成・まあまあ良かったが課題あり ×：達成できていない・良くなかった

項目	内容
<p>8 評価 (案)</p> <p>企 画</p>	<p>○地域の多職種連携の課題に即した企画だったか →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者(利用者)の切れ目のない支援にあたり、お互いの役割を確認及び共有し、多職種との関係づくりを構築するもの。 ・アンケート自由記載から、「初めて参加したが、楽しく、横のつながり顔の見える関係性ができた」「他職種の方々と話す機会に参加でき良い経験になった」など、課題解決につながる機会であったと思われる。 <p>また、研修を通して学んだこと、役に立ったことなどを具体的に記載してもらおうと、研修成果を確認することができると思われる。</p> <p>○テーマの選定 →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ざっくりとしたテーマのほうが色々な発想がしやすいのでは」と、当初予定していた「リハビリ」を「運動」へテーマを変更した。 <p>これにより、患者や利用者に運動を促す方法や継続するための方法、また支援者の体力づくりも大事である等、様々な視点から情報交換・意見交換を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの前に、話題提供として市立病院のリハビリや地域リハビリテーションの活動紹介と、運動の目的や体験談の話がされたことで、グループワークに入りやすかったと思われる。 <p>○周知方法 →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関へ送付。小部会メンバーや運営協力員も各所属や各種会議等で参加を呼びかけた。 <p>○会場の状況 →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前申込が96名であったことから、会場を分けることも検討したが、一体感がなくなるため一会場とした。17テーブルを用意したが、参加者数が申込より若干少なかったこともあり、窮屈感はなかった。 ・BGMは、グループワークが始まると全く聞こえなかった。CDラジカセでは会場全体に音が伝わりにくい。 ・コーヒーコーナーを設置したが、設置場所が会場の奥だったため、入り口付近に設置したほうが取りに行きやすかったと思われる。
<p>プ ロ セ ス</p>	<p>○小部会の打合せ・準備状況 →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小部会2回(4/24、5/13)及び研修会担当者打合せ1回(6/10) <p>○小部会のメンバーそれぞれの役割を遂行できたか →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小部会メンバー数人と運営協力員が、旭川のケアカフェへ積極的に参加し、運営や内容を学び、本研修会運営に役立てることができた。 <p>また、大谷内先生のご厚意で「エプロン」と「ケアカフェネーム入りボールペン」の提供があったことや、「次回運営のために」とサブマスターを選任するなど、それぞれが役割分担を遂行し、皆で研修会を盛り上げようという機運が高かったと思われる。</p> <p>○ねらった参加者の参加 →△</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ職の参加は、3施設(一般社団法人創生会2名、深川第一病院4名、深川市立病院8名)から14名が参加。全参加者の15.9%を占め、看護職、ケアマネに次ぐ参加数であり、施設内でリハビリ職同士が意識して参加勧奨したと思われる。 <p>しかし、リハビリ職が就業している施設を全て把握していないが、老人保健施設からの参加がなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小部会メンバーや運営協力員がリハビリ職の参加を呼びかけたが、行事と重なり参加できない施設もあった。

結果	<p>○参加者数 →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者88名。事前申込96名の段階で、「会場の関係から、これ以上の申込は受けられない」という状況だった。 ・深川市内からの参加が78.4%と圧倒的に多く、委員等関係者以外の参加がない町もあり、全3回の研修を通して、市町・施設別に参加状況を確認する必要がある。 <p>○職種 →△</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加が1～2名の職種もあり、多くの職種が参加できとは言えない。 ・介護職(2名)やヘルパー(4名)の参加が少ないと思われる。 ・今回は運動をテーマとしたことにより、リハビリ職が多く参加してもらえよう働きかけたが、アンケートの「今後の参加意向」を職種別に見ると、「今後も参加したい」と回答したリハビリ職は41.7%で、他の職種と比較すると最も低かった。 このことから、今後もテーマによって参加職種のバラツキがあると思われる。 ・「他の研修会では見かけない人が来ていた」との声もあり、テーマに応じて初めて参加する機会にもなっていると思われる。 <p>○参加者の満足度 →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークは、とても賑やかで楽しく会話が弾んでいた。 ・アンケートでは、「楽しかった」79.1%、「有意義だった」70.1%との回答割合が高かった。「とても役に立つ」59.7%、「多職種連携づくりに興味を持つことができた」65.7%だった。 参加動機が「多職種での取組の参考にしたかった」「今回のテーマに関心があった」者は、楽しく、有意義で、とても役に立ち、多職種連携づくりに興味を持つことができたという回答割合が高かった。一方で、「職場の人に勧められた」「その他」のみを選択した者は、そうでない者と比較すると、多職種連携づくりに興味を持つことや、今後の参加意向に差が見られた。 ・アンケート回答時間が短く、記載が少なかったため、記載時間を設けるか検討が必要。 ・「時間が長いと感じた」「旭川から通勤している人もおり、終了時間が遅いと翌日の出勤に影響が出る」という意見もあり、今後は研修時間も検討が必要。 <p>○交流の場を手伝ってくれる人の確保ができたか →×</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに1名記載があったが、氏名の記載はなかった。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「顔の見える関係づくりの機会」は開始して間もないため、今後も多くの施設や職種の方々に参加してもらえよう働きかけていくとともに、運営方法等は回ごとに見直していく。 ・運営協力員が増えるよう、ケアカフェの様子や成果、魅力を発信していくことも必要と思われる。